



六郷小学校の学力・学習状況について

今年度も全国学力・学習状況調査が、4月18日(木)に全国の小中学校で一斉に実施されました。小学校では6年生が参加し、本校でも真剣に調査に取り組みました。例年通り、7月末の29日に結果が発表され、7月30日の新聞に全国と山梨の傾向が掲載されました。今年度も国語と算数の実施の年でした。この調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることと、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。本校でもすぐに調査結果の分析を行い、9月の職員会議において全教職員で確認し、その結果を活用して、2学期から全校体制で指導改善の取り組みを始めています。

この度、まとめた分析結果の概要を学校だよりとして、保護者の皆様にお知らせするとともに、地域への回覧を行います。なお、調査に参加しました6年生一人一人には、個別懇談等を利用して、具体的な課題等について説明していきます。

分析の結果の概要と改善策

※ 六郷小の平均正答率は、国語・算数ともに全国平均と概ね同等でした。全国平均を算数が若干上回り、国語が若干下回る結果でした。全国・県平均との比較をもとに考察をしました。

Ⅰ 調査問題から見る本校の成果と課題

＜＜国語＞＞

【成果】＜良くできていたもの＞

- ・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝え合う内容を考える。
- ・メモを見て情報と情報の関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解する。
- ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書く。
- ・漢字を文章の中で正しく使う。
- ・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり表現

の効果を考えたりする。

【課題】＜あまりできなかったもの＞

- ・話し言葉と書き言葉との違いに気づく。
- ・資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫する。
- ・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝えたいことを明確にする。
- ・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を下に捉える。
- ・人物像を具体的に想像する。
- ・読書が自分の考えを拓げることに役立つことに気づく。

【国語における主な改善策】

- 大事な言葉や文に印を付けたり、矢印を書き込んだりしながら情報と情報を結びつけ、整理しながら読むようにする。
- ・どのような図表やグラフを用いるとよいか、それぞれの特徴などを児童と一緒に確認したり、図表から読み取れる情報を一緒に確認したりする。
- 話を聞くときに、メモをとる習慣を身につけさせる。
- ・大事なことを聞き落とさないよう、全てをメモするのではなく、メモのポイントをみんなで確認する。
- 新聞などの短い文章を読んで、要約し、感想をまとめる。
- ・他者にわかるようにまとめることが難しい場合もあるので、理解したことと考えたことの関係がわかるように型をつくる。また、書くことの学習では、友達と助言し合いながら、自分の書いた文章を何度も見直したり、書き直したりできるようにする。

＜＜算数＞＞

【成果】＜良くできていたもの＞

- ・数量の関係を□を用いた式に表す。
- ・計算のしかたを考え、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する。
- ・小数のわり算で割る数と商の大きさの関係を理解する。
- ・直方体の見取り図について理解し、描く。
- ・割る数が小数のわり算の計算をする。
- ・速さが一定の時の道のりと時間の関係について考える。
- ・円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る。

- ・折れ線グラフから数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する。

【課題】＜あまりできなかったもの＞

- ・直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解する。
- ・速さに意味について理解する。
- ・表から必要なデータを取り出して落ちや重なりが無いように整理分類する。

【算数における主な改善点】

- 答えの根拠や理由となることを省かずに記述させたり、教師から問うたりする。
- ・途中の式を書かせる。式の意味を問う。
- ・文章にない数を使うときの式やその理由を書かせる。
- ・表の見方がわからない児童もいるので、表の見方や示されている数値の確認を全体で確認する。
- 公式や答えを導き出す過程を明らかにさせる。
- ・公式を言葉で覚えさせるのではなく、意味を理解させる（図や言葉と関連させる）。
- ・実際に紙を切るなどの作業を通して考える活動をする。
- 既習を使うことを意識させる。
- ・児童が自ら既習を使うようになるには時間がかかる。課題解決にあたって、どんな既習が使えるかを確認した上で、どう使うかを考えさせていく。
- 系統性を大切に、その学年で身につけることは定着させたい。

正答率が低かった問題では、無解答が多く見られました。正しい知識と技能を身に付けるとともに、速く正確に解答できるように繰り返し丁寧に指導をしていきたいと思えます。記述式の問題では正答条件を満たしていないものもありましたが、全く記述していない解答は国語、算数ともに少なく、諦めずに自分の考えを書こうと努力する姿勢が見られました。これまで取り組んできた成果が出ていると思えます。一方で、資料から問題の意味を理解し、適切に資料を見て、条件に合った解答をすることに課題が見られました。引き続き、問題に印を付けながら読んだり自分の解答が条件を持たしているかを再度確認したりすることが習慣となるよう取組を続けていきます。

2 質問紙調査から明らかになった本校児童の特徴と改善点

- ※自己有用感が高い（自分にはよいところがあると思えますか？）

- ※規範意識が高い（いじめはどんなことがあってもいけないことだと思えますか？）

- ※学級をより良くしようとする児童が多い。（お互いの意見や良さを活かして解決方法を決めていますか？）

自信を持って自分の良さを伸ばそうとしている児童が多くいました。また、その中で周りとは協力しながら生活しようとする姿も見られました。

- ※生活習慣・学習習慣に課題がある。（朝食を毎日食べていますか？ 1日あたりどれくらいの時間、家庭学習をしていますか？）

学校でも規則正しい生活や家庭学習の充実に取り組んでいますが、まだ課題が残っています。ご家庭の協力もお願いしながら、引き続き取り組んでいきます。

- ※学校が楽しくないと感じている児童が数名いる（学校に行くのは楽しいですか？）

ほとんどの児童は、学校に楽しく来ていますが、友達関係や学習に対して不安に思っている児童が数名います。友達との関わりに気を配りながら学習活動や学校行事を通して成功体験を積み重ね、学校が楽しいと感じられるようにしていきます。

- ※算数への興味・関心が低い（算数の勉強は好きですか？算数の勉強は大切だと思いますか？）

正答率の高さに反して、算数への興味・関心が低かったです。知識としてだけではなく、算数が自らの生活に役立つものであるという場面を取り上げて授業をおこない、算数の有用性が実感できるようにしていきます。

3 まとめ＜今後の取組へ向けて＞

この調査で明らかになったことは、他教科や他学年にも通じることだと捉えています。課題を共有して他学年での指導にも活かし、全学年、全教科を通じて改善を進めていきます。また、一人一人の児童の学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実に向けても取り組んでいきます。そのためにも、児童が自主的に家庭学習に取り組むことができるような働きかけを続けていきます。各ご家庭におかれましても、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。